

## 平成 30 年度第 3 回堺市社会教育委員会議

開催日時 平成 31 年 1 月 25 日（金）午前 10 時～午前 11 時 57 分

開催場所 高層館 12 階 農業委員室

出席委員 餅木議長、林副議長、浅野委員、植木委員、佐伯委員、鶴山委員、  
服部委員、山口委員  
(欠席 田間委員)

事務局職員 田所教育次長、八木地域教育振興課長、村田地域教育振興課長補佐、  
宮本地域教育振興課管理係長、岸本地域教育振興課支援係長  
木村地域教育振興課職員、小嶋地域教育振興課職員  
深澤地域教育振興課職員

案 件 (1) 今期の会議取組内容について  
(2) その他  
(3) 委員改選について（非公開）

(午前 10 時 00 分 開会)

発言内容

○事務局（宮本係長） 定刻になりましたので、ただいまから、平成 30 年度第 3 回堺市社会教育委員会議を開催いたします。

初めに、開会にあたりまして、教育次長の田所からご挨拶申し上げます。

○事務局（田所教育次長） おはようございます。教育次長の田所でございます。平成 30 年度第 3 回堺市社会教育委員会議の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、本日はお忙しいなか、ご出席いただきありがとうございます。また平素は、社会教育行政の推進はもとより、さまざまな市政運営に何かとご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、本年、堺市は市制 130 周年という記念すべき年を迎えることとなりました。また 7 月には百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録、秋のフェニーチェ堺のグランドオープン、多くの人が堺を訪れることが予想されます。このようななか、外の方々から堺の市民力というのを評価いただける良い機会であると思われまます。後ほど山口委員から話があるかもしれませんが、過日、大手のコンビニエンスストアでは今後、成人誌は扱わないという旨の報道がございました。これも堺セーフシティ・プログラムの大きな成果であると考えておりまして、地域の活動から大きな面につながったという事例かなと思っております、社会教

育を進める観点からも大いに勇気づけられる出来事であったと思っております。本日は報告書の作成についての議論をいただきたいと考えておりますが、新たに「SDGs 未来都市」としての観点を加えながら作成を進めて参りたいと考えております。まだまだ推敲の足りない文章での状態でございますので、とりわけ構成などについて、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、会議冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○事務局（宮本係長） なお、本日の会議は委員9名中、半数以上の8名のご出席をいただいておりますので、堺市社会教育委員会議規則第3条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げますとともに、その後の進行については、餅木議長にお願いいたします。

では、議長、よろしくお願ひいたします。

○餅木議長 ありがとうございます。

改めまして、みなさん、おはようございます。今、教育次長からもお話がありましたように、少しずつ社会が変わっていくというところが見えてきているというか、現実のものとなってきた、日常生活のなかで当たり前であったものがなくなり、新しい当たり前ができてくるというようなことが社会教育の一番大事なことかなとも思いますし、前回10月10日のこの会議のなかで、「SDGs」というキーワードが出てきて、そのことを大事にしていくということが、十分な議論はまだされていませんけれども、そのあたりをベースにして、また我々の社会教育委員会議が進んでいくのかなという期待を持って始めたいと思います。みなさん、SDGsのバッジもつけましたし、新たな気持ちでと思っています。どうぞ、よろしくお願ひします。

では、最初に、この間の振り返りということで、ご報告をお願いしたいと思っています。

「ぶらり社会教育」で二つの活動を訪問しました。一つ目は、植木委員からのご紹介で、11月18日に福田校区自治連合協議会主催の校区美化活動に、田間委員に行っていたいただきます。それから、田間委員からは、12月8日のこども夢くらぶ主催の子ども食堂に、植木委員と佐伯委員に行っていたいただきます。また、視察としまして、山口委員からご紹介がありました高校生みらい議会を、林副議長、浅野委員、服部委員、餅木が視察することができました。校区美化活動につきましては、後ほど植木委員からご報告がありますので、他の二つの訪問や、それから視察を通じての感想をお願いしたいと思います。

まず、子ども食堂から、佐伯委員、何かご感想とか、どうでしょうか。

○佐伯委員 12月8日土曜日のお昼に、ちょうどお昼ご飯を食べるときに子ども食堂にお伺

いさせていただきましたけれども、印象的なこととしては二つありまして、一つは、代表の方が特に今までそういう活動をされていた方というわけではなく、定年となり、何か新しいことを始めたいという思いで、周りをうまく巻き込みながら活動を作られているところがとても印象的でした。その人を軸にいろいろな周りの人、本当に近所のスーパーで出会った人に声をかけるなど、どんどん周りのいろいろな仲間をふやしていくという活動がすごく印象的だったのと、あともう一つは、拠点となっていた場所、しらさぎ夢テラスという地域の場所があるんですけれども、そこが普段から老人会が集まって活動をするところになっているようで、地域の人にも認知されているような場所だったのですけれども、そこを借りることができて、活動を始めますということだったので、そこでするのだったら大丈夫、安心感があるし、集いやすいなみたいな感じで、割とそういう意味で地域の人に認知されやすかったというところは大きなポイントになっている感じがしました。

訪問してみて思いましたが、その場所がたまたま団地のなかにある感じです。その団地のなかの広場みたいな、中心部の。前に車も通らないような広場があったりして、いろいろな人の目もあるし、車の往来もないしで、割と子どもたちが自由に広い空間で遊びまわられる感じのスペースがあったりとかして、建物はちょっと手狭な感じはあるということでしたけれども、そういうスペースがあるのはとても良いかなという感じがしたので、その二つが活動を支えている軸になっている印象を受けました。

あと、個人的にとっても印象的だったのは、一般的に子ども食堂というのは子どもの貧困対策の印象が強いですが、実際にお話を伺ったりとか、来ている子どもたちの様子なんかを見ていたりすると、地域の交流の拠点という感じで、必ずしも子どもの貧困対策というような形で行われているわけではなくて、子ども同士で楽しいからこの子連れてきたみたいな感じで、輪が広がっているところもすごく良いなと思って、これは行ってみなきゃわからないことだなと思いました。すごく学年を隔てた交流なんかたくさんありましたし、近隣の大学生の方のボランティアという形で関わってくださっていましたし、あとは代表の方と同世代ぐらいの70代ぐらいの方々がご飯を作ったりとか、小学生ぐらいの子どもたちと一緒に遊んだりしているので、その地域において子ども食堂をやっているときだけではなく、それ以外のときでも会ったりしたら交流しているという感じだったりするので、代表の方と同世代の方がお孫さんとかを連れていたりしたら、子ども食堂に来ている子どもたちがそのお孫さんの相手をしてくれることもあるみたいで、ほっこりエピソードをおっしゃっていました。すごく良い会だと思って楽しませていただきました。

○餅木議長 ありがとうございます。植木委員、何か補足はありますか。

○植木委員 しらさぎ夢テラスのすぐ近くの老人会が集まっている集会所というのがあって、

そこで勉強も支援しているというのもあって、しかもそれを支援しているのが引退された先生とかが一緒にやってもらっているというのも、子ども食堂に付随した良い状況で、子どもたちにとっても勉強も見てもらえるという状況なのかなというのはあります。ハード的な面で場所はすごく良いなというのが印象にありました。ちょうどしらさぎ夢テラスの店舗の前にアーケードみたいな屋根もしっかり出ていて、雨が降っていてもそのアーケードの屋根の下で子どもたちが遊べるという状況なので、本当に天気が悪くてもそこに来れば遊べるんだなあという。

○佐伯委員 あれでしたよね、アスファルトにチョークで落書きするというのが、すごい子どもたちの恒例の遊びのようで。昭和のころの。

○植木委員 最初のころは死ねとか、そういう落書きだったというのが、今はすごく明るい花を描いたりとか、子どもたちの心のなかの環境が変わってきたのかなというのも代表者の方が言われていました。やっぱり交流するなかでも子どもたちもどんどん変っていく、たくさんの人と交流することで子どもたちも変わるんだなというのは思いました。やっぱり引きこもっているだけではなくて、いろいろな人と触れあうというのはすごく大事なのかな、というのは感じました。すごい落書きでしたけれども。

○佐伯委員 最後はみんなで消すんです。

○植木委員 消すって言っていましたね。あと、食事はカレーライスだけです。それ以外のメニューは全くないです。

○餅木議長 それは毎回ですか。

○植木委員 毎回カレーです。そのカレーも、もともとカレー屋さんをやっていた方が閉店したので器財も全部そこからもらって、その方のちゃんとお墨つきのカレーらしいので、確かにおいしかったです。

○餅木議長 いろいろなものがそろっているなあ。

○浅野委員 材料はどうしていますか。フードバンクからですか。

○植木委員 恐らくフードバンクです。そこはそういう形ですけれども、みなさんの支援のよくな形になっています。

○餅木議長 いろいろな資源を使いながら、人がいて、場があってということですね。そういったものが整備されていくことが今後の課題なのか、見つけ出すのか、というような良いお話です。ありがとうございました。

○浅野委員 発展させるというか、今そのことを捉えたときに、恐らく社会福祉協議会が子ども食堂のネットワークというものをお作りになっていると思います。そのなかでぱっと見れば、南区のニュータウンエリアで空き家がだんだん増えてきていると、その空き家を使

ったらどうでしょうとって、私は実際に見学に行ったことはないですが、退職されたおじさんの、晩になったら飲み屋になるみたいですよ。お昼は子ども食堂に使うという形で、ある意味共通の目的で、さっき貧困のお話がありましたけれども、一つの人が集まる手段として、その子ども食堂を活用されているということで。私どもの校区も月に1回だけやりますけれども、いろいろな切り口というのがあるシステムというか、取組なので、せっかくこの一つ取り上げたら、例えばネットワークのところから情報をいただいて、何らかのところに拡大していくことを考えてもおもしろいのではないかなと、今少し感じました。

○餅木議長 ひろがりということがまた、たくさんあるんでしょうね。可能性がたくさんある、貧困対策だったら毎日となったらどうしようもないですけれども、そうでなくて、月に1回でもあれば、交流ということが生まれるというお話でしょうか。

○浅野委員 実は、うちの校区のもともと出身者の方が、貧困対策の一点で、地区の真ん中でやっておられる、図書館があるんですけれども、小さなミニ図書館を作って、子どもに本を見せにきたついでに、そのようなのをしてもいいのではないかと、どうせなら土地も含めて買ってあげるよという非常に温かいお話を聞いたんですけれども、それをいただいたら、あとやめるわけにいかないですよ。運営上の体制を確実にしないといけません。そんなので案外、興味を持たれている事業かなということは何回か接触をされていて感じています。

○植木委員 貧困対策で子ども食堂をすると、うちは貧困じゃないからと、親が連れていかない、そこに出さないということを言われていました。だから、それを出すよりは何か集まる場という形でやっていった方が良いのかもしれないと思います。

○餅木議長 そういう意識を変えるというか。

○浅野委員 貧困がかなり強調された形で当初出ていましたので、それとは違うということで。

○服部委員 私がお訪ねしたところは、かつては先生をしておられた方を募集したところ、12人の方がおられたそうで、子ども食堂が開かれる時間まで、学習の手助けをしてもらえるということで、とても素晴らしいことと思いました。また、外国の方も住んでおられるということで、英語も教えていただけるということでした。学習ができて食事もいただけるということで、行き届いた地域教育に関心いたしました。

○餅木議長 ありがとうございます。本当に素晴らしいご報告、ありがとうございます。いろいろ困っていることとかもあるのでしょうけれども、そういうところもまた共有しながら、ネットワークなどで解決していく手だてもあるでしょうし、良い試みだったと思います。ありがとうございます。

続いて、高校生みらい議会のお話を伺いたいですけれども、浅野委員、引き続きで、ご感想などありましたら。

○浅野委員 終わってから少し、餅木議長を含め雑談でお話したのですが、今回、これは山口委員の発想で、ということですね。取組そのものは大変良かったし、いろいろな学校そのものが宣伝を含めて、ご参加された中身だったと思いますが、少しこちら側のサイドから見たら、1回目であの程度はやむを得ないかなと思うのですが、例えて言えば、鶴山委員がされた、ワールドカフェにつなげた、その辺りのプロセスがいっぱいある中身なので、多分子どもたち、どう思いますかと言われたときに、話す動機が少なかったでしょうね。ですから、その辺で議員方がそれぞれ、ばあっと各テーブルに集まって、すべてを見てはいないんですけども、この辺のこういうテーマのなかで、ということをもう少し、引き出し方がそれぞれテーブルで意識統一されていないから、活発に出ているところと出ていないところがありました。

それと、区民評議会でもよく上がっているんですけども、1回、自分達が言うのではなく、大人目線ではなく、何か夏休みの課題で学校と協働して、特に小学生とかは課題や宿題のなかにそのようなテーマを与えてあげたら、違う意味の意見が出てくると違うのかなというような話があって、企画は非常におもしろくて良い中身だと思うんですけど、できれば第2回に、バージョンアップしたことをしたら、参加していた子どもたちの印象もまた変わるのかなと思います。発表されている子と、全くしゃべっていない子、5分刻みだったので、しゃべっていたかどうかわかりません、少し雰囲気的に議員方のリードの方が、何か出さないといけないということで、すごく受けてしまったのが第1回目でした。せっかくの良い機会をもう少し、何か工夫の必要があったのかなあと感じました。下北沢とかのような、劇場がないし、発表の場所がないけれども、このようなことを独自に考えていますし、こういうところを提供してくれるような公民館などを含めてないのかなというのは、私の校区でそういう高校が近いのかどうか別だけれども、考えても良いのではないかなと、非常に参考になったと思います。

○山口委員 ありがたいご指摘ですが、浅野委員。私は鶴山委員たちが中学校の生徒会の子どもたちを呼んで、あのとき萩原先生をファシリテーターに呼んで、ちゃんとしたワールドカフェをしたじゃないですか。だから、盛り上がるんですよ。ところが、中途半端なトークカフェみたいな形になって。このようなことをすると議員にとっても良いトレーニングですね。議員の技量が、例えば高校生から質問されて、堺市の施策を答えられなかったり、それは本当に議員にとっても良いトレーニングの場所になるのですけれども、本当の意味でワールドカフェをやれば良かったということが、私としてもおっしゃるとおりです。それと、もう一つは、今回初めて行うということで、高校生に来てもらうって、あの時期受験前で、議会のなかの方で、「3年生に限る、18歳やから」とか、おっしゃるわけですよ。「でも、先生、それは今受験前

にして無理ですよ。だから、高校生だったら良いじゃないか」と。堺市内の高校と言っても、堺市の子どもかどうかわからないわけですよ。居住しているかどうか分からない。だから、在住・在学の子どもに枠を広げて、堺市内の公立高校に全部お願いに回りました。そうすると、高校によっては、「先生、うちの学生、子どもらは、生徒はね、そんなところの場所に出て、そんなものよう言いませんから、できたら事前にシナリオが欲しい」とか、「別にしゃべれるとか、そんな雰囲気のものじゃないので、すみませんけれども、気楽に出たいという人を出してください」とか。別に成績が良いとか悪いとか、そんな選別は学校にお任せしますけれども、学校の恥だとか、そういう考え方ではなくて、堺市のことをいろいろと考えてくれている人や、クラブとかあるじゃないですか、環境のことをやっているとか、そういう人たちでも結構ですからと言うと、校長先生、教頭先生に会いに行ってお願ひするときに、まず非常に警戒感があって、しんどかったですね。それで、チラシ1枚とかネットでやれば良いですけども、そういう難しさがありました。議会としては準備期間のないなかで、本当にあれが精いっぱいでした。本当は高校生みらい議会としては、もっと本当に高校生に主体的に任せてしゃべってもらいたいぐらい、私たちは一緒に入っても良いし、高校生の人たちが今不満に思っていることとか、学校の受験とかにどう思っているのか、18歳成人ってどう思っているのかを本当は聞きたかったです。テーマもみんなで決めたら、堺の観光と堺のまちづくりになりました。でも、これは議会改革の一環としてもかなり進んでいることですので、本当は小学生の人たちとか、いろいろな世代の人に聞いてみたいし、障害者の団体の人たちとも交流しないと、聞かないとわからないことはいっぱいあるので、最初の取っかかりとしては、本当はワールドカフェをやりたいかっただという悔いはありますけれども。

そこは中学生とのワールドカフェを社会教育委員のみなさん方がご体験されているから違いがわかりますが、1回、議会でも議員研修でワールドカフェをやりたいと言うと、強硬に、普通の講演にして欲しいとかいう声があるんです。

○餅木議長 今のお話のなかでも、いろいろ変わらなければいけないことが、学校もそうですよね。自分の学校の子どもはできないなんて、そんなことは絶対にはないですよ。

では、みなさんの訪問していただいたことを何かの形で訪問記に載せて、報告書に盛り込みたいと思っていますので、よろしくお願ひします。どうもありがとうございました。

それでは、本日の案件に入っていきたいと思います。

まず、今期の取組のうち、報告書の作成に向けて意見を集約したいと思っています。10月10日の会議で出た意見を収録しました、林副議長を中心に提言書チームでも意見を出しあって、資料1から19が今できています。今回は報告書、右肩に書いてありますけれども、全く素案でございまして、全体のフレームをこんな感じの報告書にしたいということをご提示し

たものでございます。内容的にはまだまだ直すべきところもあると思っていますので、まず記載項目についてのイメージとして、ご確認いただきたいと思っています。特に内容とか表現については、市民のみなさんにわかりやすいものにしたいと考えています。委員のみなさんには、この後林副議長から説明いただきますので、積極的なご意見をいただきたく思います。では、林副議長、よろしくお願いいたします。

○林副議長 ありがとうございます。

10月10日の会議で、表紙や構成などについて意見を出しあっていた主な項目として、表紙には今回は写真を入れようという形でご提案をいただきまして、文字も工夫しようということで、今回こういう形で工夫をいろいろしていただいておりますので、もしこれで何か訂正とか必要があれば、またおっしゃっていただけたらと思います。写真は何か「社会教育フェスタ」とか、何か活動で、今回の我々の取組を象徴的に表わすようなものとかがふさわしいのではないだろうかかと、個人的には考えていますが、何かみなさんからご意見があればと思います。

それと、「はじめに」とか「おわりに」などに、単に今までの活動事例を載せるだけじゃなくて、何らかの「はじめに」とか、「おわりに」とかを書くことによって、メッセージ的な、この報告書全体を通じて、どのようなことを私たちはみなさんに訴えかけているのかということを入れることが、前回の話であったと思います。

それと、前回の話であったのがあと2点ぐらいありまして、「SDGs」——これはもともとこの提言書、前回作っている段階からいろいろご意見いただいて、そのエッセンス、「誰一人取り残さない」とか、そういった文言もこれまでの提言書にも入っていましたし、今回、もっと全面的に入れていこうということと、お手元のカラーパンフレットの裏面の一番最後のページなんかにも、「SDGs」の説明がありまして、見ていただいたらわかりやすいかとは思いますが。この提言書とすごく趣旨が似ているのは、私たちの毎日の生活のなかで、常に気をつけていることのなかにもSDGsに関係しているという、これはまさに私たちが提言書のなかで、日常のなかに豊かな「つながり」を作っていこうというなかに社会教育というのがあるんだというのと、全く重なるところもあるのかなというところで、そのあたりもこの報告書のなかにどんどん盛り込んでいこうというような形を考えております。

それと最後にもう一点、前回ご提案をいただいたのは、民法改正とかそういった時代への対応、今回ページで申し上げますと、7ページに、茶の湯まちづくり条例、民法の一部改正、それから、改正出入国管理法のこの3点が、最初に議長からもおっしゃられていたように、かなり今までとは抜本的に社会を変えていくような、そういった当たり前が今までは通用しないようなものを、到来を意味するような出来事もあるかと思うので、こういうのも盛り込



もうというご提案をいただきました。

それと、今日特に一番決めなくてはならないのは項目として、細かな文言に関しましては、これから最終調整でできますが、今日、できれば4ページのこの項目、このあたりが果たしてこれで良いのかということ、大体確定をめざせたらと思っています。

最後に、4ページの目次ですが、前回同様「はじめに」と、それと最後に「おわりに」、編集後記、というのを付けさせていただけたらと思います。

区切りごとに意見集約をしていけば良いとは思いますが、例えば表紙とかこのあたりとかは、みなさん、ご意見とかいかがでしょうか。写真はこんなのが良いとか。どうでしょうかね。1ページですね。あと、この表紙のなかでは写真と、あと報告集という、この言い方でいいのかということで、提言書でもありますけれども、入りやすさ、読みやすさでいいですと、そういうのが良いと思いますけれども、もしこのあたりでご意見などがあれば、まだ確定事項ではありませんのでおっしゃっていただけたら。

○山口委員 私はこの写真の真ん中に堺市独自の、堺市が昨年6月15日にSDGs未来都市に選定された29都市の一つですけれども、そのマークは古墳のマークですよ。このカラーが古墳のマークになっている、「SDGs未来都市・堺」と出ています。ものすごくかわいいですよ。

○事務局（田所教育次長） ちょうど3ページの右上に。ちょっと白黒で申し訳ないですが。

○山口委員 こういう横長のと、これが正方形になっているのと、両方あります。できたら、古墳が上に載っていて、下にSDGs未来都市・堺というのもありますが、それを真ん中に入れて、その周りの写真は十数枚、堺のいろいろな世代の人がぶらり社会教育したところで笑っている顔、そういうのが良いと思います。ただ、子どもの顔とか、実在する人物の場合は難しいかもしれませんが、その辺は配慮しながら、そういう活動している写真で、できたら笑顔が多いのが良いんじゃないかなと思います。

○林副議長 おっしゃるとおりです。何か、一つの活動になかなか集約することって難しいから、やっぱりみんないろいろな世代の人が関わるものだということと、それと最初にこのSDGs未来都市のマークがあることで、関連しているという形で、SDGsの観点からこの取組に興味を持ってもらうというのが非常に良いかなと思います。

人物だけがどう映るかとか、本当に課題になっているので、クリアできるところはクリアして、難しければ遠目の写真でも、何か楽しそうな、体の動きが見えるところだったら、小さな写真とかでも対応できたら良いかなと思います。

あと、4ページ目の目次ですね。これ全体に関しましては、どんな感じでしょうかね。前半が活動事例集1で、ぶらり社会教育で行かせていただいたところとかを書いていまして、

後半、活動事例集には行政などの取組という形になっていまして、また前半の活動事例集1のなかには、「社会教育フェスタ」や「親子で！みんなで！古墳を清掃！」の取組も入れる予定です。

資料編としましては、前回同様の提言書というのが入っております。構成に関しまして、大丈夫でしょうか。6月ですので、次回の会議の段階では、ほぼでき上がっていきなくてはならないので、今日、この大枠のところを最低、決まっておかなくてはならないと思います。

○山口委員 目次が地味ですね。「ぶらり社会教育訪問記」というのがどういうものなのかというのを、活動事例集1の下に幅1センチぐらいの楕円形の長いのを書いて、現場へ行ってきましたとか、提言書で言っていることというのはどこかなどを文言に、一言ありましたら、「そのために『ぶらり社会教育訪問記』をこれだけ行きはってんな」という感じが分かりやすいと思います。だから、これも社会教育でしたよねとか、そういう文言で散らしてもらおうか、あと次、社会教育の「つながり」というところで、ここ少し変わりますよね。

○林副議長 そうですね、その「つながり」を説明する。

○山口委員 これだったら一列に並んでいて、みなさん多分下まで到達しないと思います。だから、3枠目のところもやっぱりそういう枠を入れて。

○林副議長 そうですね。何か吹き出しみたいな。

○山口委員 ここはみんなでやったよみたいな感じが良いと思いました。

○林副議長 ありがとうございます。

○山口委員 見せ方の工夫ですね。大きくぶらり社会教育訪問記と「つながり」でフェスタやったり、行政の取組を見に行ったりされているので、枠が分けられた方が見やすいかなという感じです。

○林副議長 楽しい雰囲気が伝わるように、イラストもゆるキャラはたくさん堺にありますし、いろいろ使いながら、そこは言われなかったら全然気がつかなかったというのがあります。ありがとうございます。

○山口委員 先生方は研究論文を書いておられるから、研究論文でそんなことをしたら怒られますよね。

○林副議長 そうですね。これは市民に向けた文書ですから。

構成は特になければ、こういう形でいかせていただきます。あと、気になるのが時事的なものが、7ページにありまして、茶の湯まちづくり条例、民法一部改正、改正出入国管理法など、たくさんありますが、これは掲示しておくだけでも良いし、もしくはもうちょっとSDGsの観点があるだけでも結構変化というのは実感できるので、盛り込む必要があるのかとか、そういう根本的なところでも結構ですし、そのあたりはもしご意見などがあれば、ど

うですか。もしくは、新たにこのことも大切じゃないかとか、そういったことを提起していただけるかと思いますが。

○山口委員 まず、5ページの「実践からのアプローチ」というのが急に目次の後に出てくるのがちょっと説明不足だと思います。何のための何の実践なのかという形で。これは「社会教育って何」というのと、「つながり」を求めて実践、誰の実践なのかよく分かりません。実践をやっている方々につながっていきましたよね、去年は。そういうことですね。その辺も工夫が要るかなというのと、6ページのポイント2が、わかりにくい。この言い回しはね。だから、誰一人取り残さないというSDGsの理念はそのままずっと入れて、ちょっと言葉をつなげるのだったらつなげた方が分かりやすいと思います。

それから、7ページですが、こういうのを入れるのをすごく良い観点だと思います。ただ、堺市と国全体と、というのが入り混じっています。それを見せるとしたら堺市で抜けているのは、茶の湯のまちづくり条例も大事ですが、まず去年、世界遺産の国内推薦に決定されたということ、その後を「SDGs未来都市」に選ばれているということ、それから、民法の改正を書くのはすごく大事なことだと思いますが、これを書きいただくなら、1年古いけれども、やっぱり110年ぶりに性犯罪に関する刑法が大幅改正されて、それが堺のセーフティプログラムにつながっています。そういう意味では、追加していただいても良いかなと思います。

私が全体的に気になっているのは、これからの話ですが、「ぶらり社会教育訪問記」は、まずお互いの社会教育関係団体が何をしているかとか、していったけれども、残っているのは先生方の領域で、大学などのところで社会教育をどう教えられているのかとか、大学生って結構実践していますよね。フィールドワークをしていますよね。どのようなものがあるのか、もし紹介していただける事例があったら、そこへまた見に行きたいとも思います。そうすると、この社会教育関係団体全体の構成メンバーとしては、結構「ぶらり社会教育訪問記」も整っていきますよね。全体像が見えてきます。

それと同時に私が言いたかったのは、国際性、例えば先ほどやってらっしゃった子ども食堂ですが、本来は貧困の子どもをどう救済するかという一環として考えられていたのが、やはりおっしゃるように下手なやり方をしたら、本当に貧困な人は行けない、私は貧乏ですと言わないといけないというような、そんなおかしなことはないということで、今何となく、みんなにぎやかで子どもの居場所づくりという雰囲気レベルでとまっています。

実は堺と姉妹都市提携を結んでいるパークレーも、これはもう約50年になります。姉妹都市のパークレー市でアリス・ウォータースさんというスローフードの行列のできるレストランをオープンされた方がいらっしゃって、テレビでもよく紹介されています。その方が、ア

アメリカの地域性があるんですけども、地域によって小中学校で非常に貧困で食べられない子どもたちがいる。どうしたかという、安全・安心な野菜を使ってやっているレストランのオーナーだから、学校で子どもたちや先生方と一緒に畑を作って野菜を作ったりしながら、先生はこんな言ったら嫌がるかもしれませんが、日本の学校では。外の人たちと手伝ってもらって、地域の人たちも手伝ってもらって、子どもたちと一緒に野菜を育てて、学校でそれを使って料理して食べているという、交代で担当して。そういうことを成功させている人です。だから、今度ぜひこの社会教育委員会議でパークレーへ行って、「ぶらり社会教育」で。大事だと思いますよ。本当に失敗しているところもありますし、成功しているところもあるので、そういうのは良いですね。もし、飛行機代が出ないのだったら、アリス・ウォータースさん一人を呼ぶとか。

そういう「つながり」のある姉妹都市で、やっぱり子どもの貧困についてはこういうことをやっていますよというような、非常に学術的にでもやっているんですよ。やっているのを紹介するというのも可能ですよね。「つながり」の広がり国際性を持つときに、いきなり何でこの国、という話ではなくて、長年パークレーと子どもの交換留学生もしていましたし、いまだにやっていますから。来年度はそういうところへ行ってみても良いですね。

○林副議長 国際的な「つながり」という。

○山口委員 視点ですね。

○林副議長 留学生の方も、大阪府立大学とかもね。

○山口委員 いっぱいいらっしゃいますしね。

○林副議長 そうですね。いらっしゃるんで、そのあたりの「つながり」なんかを生かしているたり、あと、大学の取組では、関西大学も恐らく子ども食堂というか、朝食をやっていたんでしたっけ、そういう取組を始めたりしているので、そういった取組を取材させていただいたり、SDGsに関係すること、大阪府立大学はたくさんやっていたらと思うので、その辺とも絡みながら、日常そのものにある大きな学びとか、教えあいとか、そういうのを社会教育として盛り上げていって「つながり」を深めていこうという形でいけたらと思います。そして、全部入れることがなかなか難しいかもしれませんが、どんどんアイデアをぜひみなさんから出していただくと良いかなと思います。よろしくお願いします。

いかがでしょうか。こういう視点を入れるとか、あと、文言などについてでも構いません。先ほどありましたように、難しければもともとの原文どおりに、誰一人取り残されないという形でやっていくのが良いのかなと思います。

○佐伯委員 すみません、少し戻りますが、4ページの目次のところで、訪問記ということで、その1、その2、その3というのがずっと並んでいます、並んでいる活動の表記が団体名だ

ったり、活動の会の名前だったり、混在しているので、そのあたりが読みにくいかなと思うので、そこは何かもう少し情報を入れるとか、表記を統一するとかいう形の方が見やすいと思います。こういう団体がやっているこういう活動を見に行っただな、みたいな感じのことが一覧で分かったりすると良いかなと思いました。

- 林副議長 両方を載せておけるのであれば、団体がはっきりしないところがもしあったらとか、取組の名前やタイトルがはっきりしないところもあるかもしれないので、なるべくその辺が整合性というか、わかるようにしたいと思います。

また、資料10ページ、11ページです。「ぶらり社会教育訪問記」のホームページ版が6ページほどありますが、それを2ページでまとめていますが、このフレームについていかがですか。

- 山口委員 これ、いいですか、すみません。すごく良くできています。でも吹き出しのなかを読むと、私たちは読むけれども、もう少し写真と文字の配分、写真が多い方が良くないですか。どちらかという、報告集はビジュアルにやった方が。説明というのは最小限でも良いんじゃないかなと、報告です。その後、もしアニュアルレポートとして残していくのであれば、どこかで行った人が半分のページぐらいコメントしておくとか、それで良いと思います。少し取捨選択できるのではないかと思います。ただ、16ページとかはおもしろいじゃないですか。この横に、「社会教育フェスタ」と出ていますけれども、とじの方向に入ったら見えないですね。同じ一つの「社会教育フェスタ」が何ページにもわたっているわけですね。一番右上にやっておくとか、それと、このごろ堺市で流行しているのはSDGsの四角いアイコンを思い切り散らすんですね。これは多分、この目標が一番だけでも、本当は全部つながっているんですが、このアイコン、一番近いテーマがこれだったね、というような。「つながり」でいくと、ほとんどが17とかになってくるんですけども、そのなかでやっぱり教育とかになると、4とか入ってくるわけですね。そういうのを意識してみんながやり出すと、「つながり」に深みが出てきますよね。テーマを絞っていいと思います。その方が良く思います。

- 林副議長 一つの整理していく観点がたくさんあるよりは、SDGsのこの観点とつながるという形でやっていけば深まると思います。

- 浅野委員 一点、せつかくSDGsということ去年以来、ずっといろいろなお話をしているなかで、SDというのはいわゆるin gとか、行動です。Gというのはゴールですけども、例えて言えば、13ページにしても、最初のところ、右肩のところ、誰もが取り残されない云々ということで、SDGsのゴールを共有します、ということになっていますけど、ゴールそのものは良いけれども、下にあるプロセスなんていうのはもともとがやっ

ていることで、やっていることに対してSDというのか、誰もが取り残されない、もともとこういう活動をしていますよ。その活動のなかで取り残されないような仕組みとか工夫作りをしましょうということで、ここは何か少し、ありきたりなSDGsがゴールですよというよりも、そういう段階を踏んでいるような見せ方をする方が、現実とゴールというのがもっとはっきり見えて、SDGsそのものがゴールじゃないですよ。SDはプロセスで、みなさんが活動してもらって中身だから、切り分けたような見せ方ができないかなというのは少し感じました。こっちばかり目が行って、こっちが目に行かんようになったら主客転倒になってしまいますので。

○林副議長 ありがとうございます。だから、例えば11ページでいえば、この過程がよく見えるような形で、例えば今、茶の湯まちづくりとか民法とか、出入国管理法の話が出ている、このあたりに例えば気づきがあって「つながり」が深まっていった、その結果として、誰一人取り残されないというような形で、少しこのあたりにSDGsを。

○浅野委員 今、林副議長がおっしゃった、このあたりが、この目的の中の個々にそれぞれがあり、それがこういう全体の活動のなかで進めていったらゴールというのがあるんでしょうと、ゴールは一つひとつの目的がゴールじゃないので。17がすべてつながったら一番良い話だと思いました。

○山口委員 おっしゃるとおりです。

○林副議長 ありがとうございます。そのあたりがもっと見えやすくするような形で、なぜこのゴールにつながるのかという過程がよくわかるように、再編集していきたいと思います。

○山口委員 そのとおりですね。15、16ページが模造紙をいくつかを紹介します、じゃなくて、ワールドカフェででき上がった模造紙というか、ワールドカフェで出た意見ですよ。これ、16ページにも見開きになるんですか、ここは。それなら1カ所だけで良いけれども。これは何の問いに対する答えか、わかったら良いですね。

○林副議長 そうですね、そこに背景を足しておく方が。

○山口委員 ここに参加した人はわかるけれども、初めて見る人は何だろうと思いますよね。

○事務局（宮本係長） 15ページの上に、当日出された問いは書かせていただいておりますけれども、もっとわかりやすいようにということですね。

○林副議長 ワールドカフェの簡単な説明というか、ワールドカフェとは何かというところもありましたか。

○事務局（宮本係長） 13ページにございます。

○林副議長 13ページのあたりですかね。カフェのような感じですね。ありがとうございます。でも、おっしゃるように、ちょっと「つながり」がよく見えるような形の工夫もしていく

ので、大丈夫ですか。なければ、みなさんからいただいた意見を、全部が反映できるとは必ずしもできないかもしれませんが、できるだけ多くの、今日いただいた貴重なご意見を踏まえて、より良いものにしていきたいと思います。項目に関しては、一応こういう形でいかせていただけたらと思います。ただ、その見えやすさとか表記、佐伯委員の方からもありました、その表記統一とか、そのあたりも工夫していきたいと思いますし、どうかよろしく願いします。

○山口委員 すみません。この報告集の目次で、これが来年度につなげていくところ、というのはないのですか。おわりに、でいくのですか。

○林副議長 そうですね、おわりにで。

○山口委員 今日、いろいろみなさんの意見が出て、SDGsの目標達成のために、今まで私たち、社会教育関係団体とかがやってきた、市民のみなさんがやってきた活動そのものがSDGsだったんだよと、プロセスを大事にするとか、国際的な視点を持つとか。

それと、もう一つ私が提案しておきたいのは、来年度以降に向けてですけれども、この堺市もSDGsをやっています。世界193カ国が同時にやっています。具体的に先進国である日本はパイロットカントリーに選ばれています。193のうち44カ国がパイロットカントリーで、日本政府としても日本政府独自の持続可能な開発目標、日本が持続可能になるような目標を立てないといけない、そして我々のような地方自治体も独自のSDGsの目標とか行動計画とか求められています。私は思うのですが、今まで役所はよくPDCAサイクルで物事を推進する進捗会議とかと言っていたけれども、林副議長、どうですか。教えていただきたいのですけれども、最近ソーシャルインパクトボンドという、これも今までみんな、実際には官民連携とか産官学連携とか言ってやってきていることなのですが、やっぱり社会教育委員会会議としてこれから「つながり」を広げていくという目標を達成していくときに、手法として社会的資源の話が出ていましたが、いわゆるいろいろなステークホルダー、いろいろな組織、いろいろな団体、いろいろな個人が本当に自由につながっていくことの道筋を、私はここで見出せたらと思っています。ただその手法の一つに、この社会教育委員会会議のなかに企業が入っていないじゃないですか、事業者とか。この社会教育委員会会議自体のステークホルダーを増やしていく必要があると思います。本当に障害者の方々とか若い人たちとか、いろんな立場の方でも社会的課題を抱えている人とか、そういう視点をどこかで入れてもらえたら。これからめざすもの。本当はそれならそれで、改めて会議をしてつなげていくべきだと思うんですけど。このまま終わると毎年毎年、今年これやりました。あれやりました。あ、そうなん。実はそうじゃないわけですよ。来年はもっとこうしようという話があるわけですから、それはここに載せていただけたらなと、押したいなと思います。予

算がつくかどうかは別として、パークレー行きたいねとか。

○林副議長 おっしゃるとおり、やっただけじゃなくて次の見通しとか目標を明確にしながらやっていくという。

○山口委員 本当にSDGsをしようと思ったら役所の縦割りでは無理ですよ。環境でも人権でも教育でもみんなつながっていかないと。私たち自身が今までのやり方とか手法とか考え方から脱却しないと。社会教育だから教育委員会が所管ですけど。これだけの幅の層が活動していくに当たって、全ての市民の方々を相手にするに当たって、本当はもっと予算ついても良いんですよ。行ってきてください、パークレー。私思いますよ、堺市の職員も一遍外に行かないと。

○林副議長 大切なメッセージであると同時に、次の目標というのがこの「おわりに」に書かれていることが大切かなと思います。それで次回、どこから話し合いをスタートしたら良いのかというのが明確になりますから。

○山口委員 「はじめに」があるから「おわりに」があるかもしれませんが、「おわりに」と言ったら終わってしまうので、「未来へ」とか「来年度に向けて」とか、もう少しわくわくするような話でも良いと思います。研究論文の様式としてはイレギュラーですけども。

○林副議長 市民の気になる課題であるとか。

○餅木議長 展望。

○林副議長 そうですね。「おわりに」で「未来に向けての展望」とか何か、もしくは「おわりに」を丸ごと切ってしまうか、そのあたり、いろいろな様子を見ながら考えたいと思います。単にこれで終わりです、さようならと言うわけではないような、そういうような文章でやりたいと思います。貴重な提案だと思います。またそこに盛り込んでおくべき事柄とか委員のみなさんからあれば今のうちに、メッセージ、こういうことを入れておいてほしいとか、山口委員からは大学との連携とか国際的なものとか言っていた分があると思いますけれども、何かあれば。そこは目次さえ決まっていればこれから入れていくことができますので、もし本日お気づきの点があったらこういうことも入れては良いのではないかとということがあればおっしゃってください。

○山口委員 たまたまパークレーと言いましたけれども、ウエリントンもあるんです。ニュージーランドの首都です。パークレーはウーマン・リブが生まれた町。ウエリントンは女性の選挙の参選権、世界初の町です。中国の連雲港。来月にはベトナムのダナン市と友好都市提携をします。それと同時に堺市はアセアンとの交流に力を入れているので、アセアンの大学院生とか大学生とか公務員とかが議会表敬に来て交流するんですよ。おもしろいですよ。イスラム教徒は食べられないのです、豚や牛は。私も去年園遊会に行きましたけれども、焼き



肉と焼き鳥があって、何の肉かなと思ったらマトンでした。何でマトンですかと聞きましたらマトンは世界中の人が食べても良いんですって。これから海外の人と交流するときはマトンですみたいな。そういう気づきがありました。

○林副議長 ベトナムともどんどん接点を持つようになってきていますし。

○山口委員 ベトナムの大学生は日本語ペラペラです。

○林副議長 非常に勉強熱心ですから。

○山口委員 何で日本語を勉強するのって聞くのですが、本当に日本に期待しています。

○浅野委員 労働者もベトナムの方が非常に増えています。

○林副議長 そうですね。研修生、技能実習生。

○浅野委員 たまたまここで出入国管理法の話がありましたけれども、私の校区が堺臨海のちょうど入口の校区に当たるので、臨海エリアで働く方は既にベトナムや中国だとかいろんな国の方が現地で採用されています。当然面接もするし日本語も必要ということで、名称は「外国人労働者問題協議会」という名前ですが、去年に「問題」という言葉はおかしいので、名称を変更しようかと言った途端にこうして大きな話になりましたけれども。既にこのエリアでは外国人の労働者が来てもらったときにどんな環境でどんな問題があるのかというのは協議会で議論しています。警察と企業がいて、たまたま窓口の入口の企業でそこに住んでいらっしゃる外国人が、ルームシェアとかされている方が多いということで、少し違う立場なんですけど自治会が、入っています。そのなかでもいろんな問題があったり、林副議長がおっしゃるように、日本を意識した学生とか、そういうのは当然増えています。全く余談になってしまいますけど、私どもの校区から見たら、例えば、世界遺産で話題になっている大仙古墳周辺で、ごみのポイ捨て禁止の看板が韓国語、中国語、英語で書かれていますけど、それ以外の言語で書かれていなかったら、分らない人もいます。全く同じような状況で、自治会のごみを出す日すら外国人の方に説明ができないんです。そのようなことを自治会の方と話をします。例えばこの出入国というところで、例えば留学生の話でしたけど、小学校に通っている子どもを通じて日本語がわからないお父さんお母さんにこの日はごみ出さないですよと伝えてわかってもらうという状況です。学校の社会教育のなかでそのような取組も、時代にあったような中身になっていくのではないのかなと、先ほどお話にあった。それならまず留学生とのコミュニケーションというような、感じましたけどね。

○林副議長 熱心に日本語を勉強して、大和川の北側で今晚もベトナムの方にたくさん教えます。4月以降はもっとこられます。遊ぶ場所とか、サッカーが大好きだったりしますし、そういう場所をこれからどうやって見つけていくのか、それは相互理解というか、この報告集の最後に今後の見通しというのをぜひ書いて、次に提言書をまとめるときはもっと大きな問

題というか我々の社会を根底から変えていくような出来事かと思うような、そのあたりを最後に書いていただいても良いかなと思います。

○浅野委員 この枠から外れてしまうかもしれませんが、取っかかりぐらいを作る、この中身。提言というレベルで言えばこれを考えないといけないでしょうということを出しても良いと思います。

○林副議長 そうだと思います。ぜひ最後に。

○餅木議長 ありがとうございます。とても深いお話で、今まで議論で抜けていたのはSDGsと言う言葉があって、分かりにくいですが、私、世界の目標と書いたら、もっと市民がわかりやすいと思いますけど、横文字、アルファベットも並ぶ、いろいろありますからね。それだと社会教育とどう結びついてくるのか、社会教育の意義というのは何なのか。何となくもう社会教育の時代じゃないだろうとかいうのが出発点であったりしましたが、そうではないということがたくさん論議されたなと思いました。難しいことだけでもSDGsが目標とすると現実に足りないものがたくさんある、欠乏したものがたくさんあるということに目を向けていく。日本のなかにでもあるし、これから入管法が変わって外国の人たちがたくさんこられることはもう間違いないでしょう。そのときに本当に困らないように、ちゃんと受け入れられるような、我々が体制を持つということも含めて、我々の仕事だと考えていかなければならないのかなと、みんなの仕事ですけれども、そんなことも考えました。大変に深いことなので、私のように視野の狭い者には分かりませんが、そのあたりのことを今後勉強しながら、報告集についても、とにかく出すということよりも時間が少しかかっても仕方がないので、焦らずにできるだけ良いものをみなさんのご意見を反映したものにしていけたらなという感想を持ちました。どうもありがとうございました。

○山口委員 餅木議長、でもSDGsを目標達成しようと思ったらツールの最大は社会教育しかないです。

○餅木議長 そうですね。

○山口委員 私はそう思っています。だから、今日のパンフレットを開いていただいて三つ目に経済社会、環境面の総合的達成なんていうのは社会教育の領域でしか解決できない。先ほど言ったソーシャルインパクトボンドの考え方の社会教育で、ここでやっていることがここに直結していますよね。だからそこに座っているのが教育委員会だけの時代は終わると思います。それぐらいすごい会議体ですよ、社会教育委員会議と云うのは。

○餅木議長 企業を巻き込んでとありましたが、企業の方がひよっとしたら敏感かもしれないというところがありますよね。ありがとうございました。しっかり勉強したいと思います。

次は、植木委員からのご提案についてご説明いただきたいと思います。

先ほどの「茶の湯まちづくり条例」の、その次の 21 ページからの部分ですけれども、ご提案いただいでよろしいでしょうか。

○植木委員 このワークシートですけれども、11月18日に私の校区のところで清掃活動を半年に1回やっていますが、そこに朝早くから田間委員に来ていただきまして、いろんな方にインタビューしていただいたり、実際に清掃活動も体験していただいて、そのなかで見たこと、これはどちらかという主催側というか、清掃活動をする方の視点からですが、そのなかでもワークシートというのを基準に感想を記載させてもらっています。清掃活動は、通常やっているときに家庭教育支援とか考えていることは一切ないです、私もそういうのは。こういうワークシートがあることで少しはそういう視点で見ることができるのかなと思いました。実際何もなければ何も書きませんし、何も感じなかったとは思いますが、こういうのがあることによって違う視点から、家庭教育支援と言う視点から清掃活動も見られるのかなと思いました。これも最初にいただいたものからかなりバージョンアップしていただきまして、こういう形で今回書かせてもらいました。こちらを実際の活動の報告書と言う形でPTA協議会でも報告させていただいて、評議員の方にもこのあいだ全部報告させていただきました。ただぱっと見てもすぐわかるものでもないですので、意見などは実際ありませんでしたが、そういうふうな形の活動をして、こういう形のワークシートという形、家庭教育支援の視点からどのように見ることができるのかと言うのは報告をさせていただきました。清掃活動、実際に私がやっているときは本当に気づかなかったこと、田間委員がいろんな方にインタビューしているのを横で聞きながらいろんな意見を聞いていくうちに、こういう考え方もあるんだなと知ることができました。実際にどこかのパパさんが来られて、引っ越してきたばかりだから地域の人と「つながり」を持てるかなと思って今回初めて参加しましたと、ご夫婦で来られたんですけど、という方もいました。この11月18日の清掃活動の日に学校にも協力してもらって日曜参観と一緒にやっていただいたんです。日曜参観の前に清掃活動をしたので、保護者の方も今までよりも、今まではPTAの役員とか学級委員だけだったのが、他の保護者の方にもたくさん来ていただいたり、子どもも全員集まって学校の中と外を一斉に清掃したという形はとれたので、今までと違う形の清掃活動になったのかなというのは確かにありました。そのなかでいろんな保護者の方とか子どもたちのいろいろな話を聞いたのは良かったというのはあります。恐らく清掃活動だけでは見えなかったところも、この様なワークシートがあることで、これに沿って考えることができました。ただ、このワークシートを今後、これだけを使ってくださいと説明をしても難しいと思うので、いろんな活動のなかでこういう考え方がありますよというのがベースにあって、こういう形で考えてこういう活動をしましょうというのが、少しずつ広げていけたら良いのかなと思います。そのなかでも家庭

教育支援というのを違った視点で見てもらえれば良いのかなというのは思いました。同じようにしていても違う視点から見ることで子どもたちの新しい発見が出てくると思いますし、子どもからも活動に対する見方も変えられるのかなというのもありました。

今回の清掃活動をベースとして、2月24日に堺市PTA協議会と教育委員会との協働という形で古墳の清掃を企画しております。最初は大仙古墳と思いましたが、あまりに有名過ぎることと、広過ぎるというのがありますのでニサンザイ古墳になりました。なかなか古墳と言っても、そう行くこともないですし、この古墳がどういう古墳であるのかと知る意味では有名なところよりも違うところもあっても良いと思いました。

前回、博物館でいろいろVRを見させていただいたときにこういう古墳もあるんだとひとつ勉強になりましたので、いろんなところに行ってみるのも良いと思いました。このなかでも清掃活動の内容をこういうふうにやりましたというのを発表させていただいて、それをベースに清掃活動のなかでみなさんに考えてもらいたいなと考えております。できれば社会教育委員のみなさま、もしご参加いただける方がいれば一緒に参加させていただいて清掃活動を見ていただきたいと思っておりますので、ご都合のつく方おられましたらぜひ参加をよろしくお願いします。

○餅木議長 よろしいですか。

○浅野委員 この取組は当該校区の自治会ではなくPTAが独自で。

○植木委員 自治会の方にももちろんご挨拶して協力をしていただいています。

○浅野委員 主体はPTAですか。

○植木委員 そうです。

○浅野委員 24ページの構成図というか、イメージ図と、お恥ずかしい話ですが我が校区の実態を言いましたら年に2回、もしくは3回、校区自治連合会として一斉の清掃活動をしています。それ以外に各単位自治会が、それぞれ自治会が決めてエリアごとに清掃をされますが、結論からいけばこども会の参加は比較的ありますが、働きかけをしてこなかったからか、どこかいろいろなこと、歴史は別ですが、学校の先生方に地域を知っていただくという意味を含めて、日曜日に住民と町を清掃されたらどうですかとアプローチをかけているんですけども、まだ今過渡期という状態です。例えばこういう形で植木委員のところがまずこども会、PTAがあって、そこで後で出てくる場所の親が子育て以外のところの取組をされているのであれば、比較的我が校区にもその辺の切り口があるのではないのでしょうか。人とか構成によりますので、考えないといけないと思いますが、そのような環境から日曜参観の前にしようかという雰囲気はありましたか。

○植木委員 日曜参観の前というのは今回が初めてです。今まではPTAのなかに環境委員と

というのがありまして、そこで同じ日に学校の周りとか、なかをPTAで清掃しましょうと、自治会と一緒に実施するという形ですけど。自治会の校区の一斉清掃というのがまたありますが、PTAはPTAで学校の先生と一緒に。だから学校の先生もほとんどの方が来られませんが、その日は。今回予算が、別にそれがなくても来られます。

○浅野委員 比較的そのように取り組んでいる校区というのは他にあります。それはわかりませんか。

○植木委員 他のところはちょっと。

○浅野委員 いわゆる市PTA協議会という活動で見ているのではなく、校区PTAとして見ている中身ですよ。非常に今一番大事にしないといけないのは、自治会活動というのは従来の申し送り事項ではなく、少子高齢化を含めて住み良い町と言えれば次世代の方にいろんなことを含めてわかっていただく取組をしていけないので、そういう意味ではこの社会教育委員会に入っているいろんなことを吸収させてもらいながら裾野を広げていますけれども、こうした活動が小学校のPTAを中心に始まっているのであれば次世代の子どもたちに対する学校教育から家庭教育のつなぎの間の社会教育という立場で、どんどん取り入れて考えるべき行事ではないかと考えました。

○餅木議長 今回そういう試みをするという部分も大いにあると思います。

他にご意見とかご感想はございますか。鶴山委員、いかがですか。

○鶴山委員 今のご意見のなかに、例えば福田校区でされたのは、日曜参観という教員の勤務日をそこに設定して、その前であれば、教員も勤務の一環としてそれは出やすいというのが非常にあると思います。うちの校区でも、例えば自治会がやられる一斉清掃には教員は出なくて、自分たちで実施する分については、変な言い方ですけど、例えば部活動で日曜日に一斉清掃するのには教員が出るんですよ。そこら辺の違いというのは。だから微妙なところはあります。

○浅野委員 私どもの校区の中学校がそのやり方です。中学校の部活として地域のみなさんと知りあおうということで部活を中心に。ですからその中学校だけで80名ぐらい、多いときは100名ぐらいの人間がぶわっときて、それも制服着ているから、ぱっと目がうつるんですよ。鶴山委員がおっしゃるように。

○鶴山委員 なので、中学校のレベルの部活動の扱いというふうな、土日に出てくるということになっているところが、小学校とは大きな違いはあると思います。

○浅野委員 小学校が捉える地域とのカリキュラムの時間がありますよね。校長に聞けば年間延べ1日だとか半日だとかの単位しか枠がないので、そこにぱっと広げてしまったら、他のカリキュラムが消化できないということで先生方は非常に大変だとお聞きするんですが、今

言うような形でこういうことの一つの取組のなかに含めて、地域教育のカリキュラムを社会教育委員会、いろんなことに社会教育がありますよというなかから見れば、そういうのを増やして欲しいというのは、提言とか取組というのは可能なんですか。

○事務局（田所教育次長） 教育委員会としては地域協働型教育と言う、横に広がる教育というのをやっていますので、結構、地域の方に学校に入ってください。1日というレベルではなくて。

○浅野委員 2時間かそこらぐらいしかないです。

○事務局（田所教育次長） 1単位がそれぐらいになっていまして、いろんな意味あいでも昔遊びを教えていただいたり給食の試食会をやったり。そういう意味では過去に比べて随分地域の方のご協力を得ていたり、放課後マイスタディみたいな形で子どもを教える立場とかありまして、学校によってそれぞれいろんなタイプのやり方、地域もさまざまです。学校によっていろんな工夫をしています。

○浅野委員 マイスタディはなかなか私がしようと言う方が少ないのであまり強調はできませんけれども。

○事務局（田所教育次長） そういう意味では学校ごとにいろいろ工夫はしてやっています。学校のほうも教員の働き方改革という一面もありますし、なかなかその辺のバランスをとっていくのが学校も難しくなっていて、例えば小学校ですと英語を始めるようにしたり、今度プログラミング教育という新しい教育も始まることで、先生方の余裕がだんだんなくなっていくと言うことで、地域の方にもこれからは助けていただかないと難しいのかなと。ジレンマはありますけれども。

○浅野委員 鶴山委員がおっしゃっていただいたお話と、もう一点は教育次長がおっしゃったように働き方のなかで土日の部活そのものが非常に先生方に負担を与えているということも、あるということも十分承知しているのですけれども、働き方改革などの枠があるなかで、先ほどの部活で中学生が来てくれていた、ありがたいと言いつつ、いずれ土日にその人が増えてくれば、例えば大会の日の朝練をする前に、「おまえら、一斉清掃に行って来い」というところがあったら良いんですが、でも部活の日が、土日を何回もするというのは制限されていますよね。

○事務局（田所教育次長） 回数は制限していて、週に1日、2日です。

○浅野委員 先生がいなければそういう活動はしてはいけませんと。

○事務局（田所教育次長） 国の方から先生がいなくても指導できる部活指導員みたいな者を雇っても良いと言う制度が30年度から始まっています、堺がモデルでやっているんですけれども。なかなか指導員自体を集めるのが難しいですね。

○浅野委員 今いろんなお話聞くなかで、土日の地域と学校との活動のなかには、今言うようなことも含めて、それぞれが学校との「つながり」を考えているというのが実態です。だから少しご紹介も含めて話してみました。

○鶴山委員 もう少しよろしいですか。うちの校区では中学校の現場で一番動くのが部活動になっています。例えばお祭りをするというときにテントを立てましょうかとこちらから提案してテント十何張を一気に、サッカー部と野球部、陸上部が行って男の子がばあっと立てるということをしているとか、あるいはこの間のときには、とんど（正月用品のお焚き上げ行事）をする前に餅つきを男の子たちが行って、自分たちで「今年はないんですか」というぐらい楽しみにしているというような。地域に貢献してくれてありがとうと我々も言いますが、子どもが喜んで行けるような環境を学校現場も作っていくのは大事だと思いました。そのような活動は、日曜日が多いですけれども、部活の練習の後でというようなところを狙いながら、先生方の働き方もそうですけれども、地域の要望も一緒に聞きながら、ぜひ一緒にしていきたいと考えています。

○餅木議長 わかりました。いろんな制限はありますけれども、また、校区の状況にもよって違うと思いますけれども、そういった学校と地域が子どもを一緒に育てるという方向は絶対に必要であり、そのなかで今回のように子育てということを、今まである行事を違う見方で参加するものが見ているということを試みよう。それが堺市教育委員会の取組である、親育ち支援事業にもつながっているんだということが今回行われます。ぜひ社会教育委員会議としても参加していきたいなと思いますが、日程が2月24日ですね。

○植木委員 24日午前中ですね。

○餅木議長 ここに参加できる方がいらしたらぜひ行っていただいてコメントを言っていただくような場面があったらなと思います。2月24日に行ける方はいらっしゃいますか。また後ほどで良いですので調整していただいて行ける方を、田間委員も今日いらっしゃいませんので、見つけたいと思いますので、よろしくお願いします。

○山口委員 こんな積極的なPTAは珍しいという感想がありますね。

例えば堺はO157——学校給食の問題があって市民レベルで委員会を立ち上げてやってきましたが、当事者でない世代のPTAというのは非常に関心が薄い。本来はあの「追悼と誓いのつどい」は、本来はPTAが主体でやっていただくのが一番良かったと思いますけれども。今の植木委員の話じゃなくて、当時はショックで、みなさんが。

○浅野委員 今で言えばメールやLINEなど、いろんな手段がありますがけれども、その当時、私の校区で児童の各家庭に連絡をしたのはこども会の連絡網を使いました。というのは、P

PTAは定期的に連絡先を集めないということで、不測の事態のときに連絡する連絡網がありませんでした。こども会は毎回行事が雨だったら中止するとかいろんなことで連絡をとっていますので。その当時、全校生がこども会会員でしたのでそこで一斉に連絡をとれて以降、PTAも連絡網を作らないといけないということで作られたのが私どもの校区の実態です。周りがみんなでどう連絡とってどのように消毒液を配るのか、ということをやったということはありません。

○山口委員 だから良くやっておられると思います、堺市PTA協議会という組織のなかでPTA会長の校区がこんなことをやっていることが他に伝播していったら。

○浅野委員 やっていただきたいのは、今度は堺市PTA協議会という立場でこれを各ブロックなり校区のPTAにこういう日曜日の取組があると、やっていますよというのを、我々はこっち側で落としていくけれども、ルートの的には落としていただいたら、地域と学校、PTAがどこかでドッキングできるようなタイミングがあるのではないかと思います。

○植木委員 このような活動はもっともっとPTAのなかでも広げていって、少しでもそういう活動が広がっていけばと思います。もちろん学校の協力もいりですけど、それをPTAからも促すこともできるのかなと思います。

○山口委員 学校の先生方は忙しいから、職員室の掃除に行きましょうかって。

○植木委員 それも一斉活動の清掃活動になる。

○餅木議長 職員室、きれいにしましょうかって。

○山口委員 昔は私たち行っていましたよね、親。

○浅野委員 昔、私の地域のクリーニング屋さんですけど。学校のカーテンを無料で取り替えて、無料で洗っていただいて。その方もう、廃業されたんですけど、それまでの間はサービスだから夏休みにカーテンを全部取り替えて、洗ってあげるって。

○餅木議長 この活動について事務局の方から補足などありますか。

○事務局（宮本係長） 委員の皆様方にお諮りしたい項目がございます。資料は24から29でございます。植木委員からご報告いただきました福田小学校校区へのぶらり社会教育において、資料26のような家庭教育支援に役立つご感想をいただいております。またお読みいただきたいと思います。

資料28をごらんください。親育ち支援事業では左の欄、「お・や・そ・だ・ち」を家庭教育支援の視点の一例として提案いたします。先ほど「ぶらり社会教育」でいただいた感想のようなことは、地域活動のなかで「お・や・そ・だ・ち」から見て感じるができるエピソードだと思います。このような活動主催者や参加者が「お・や・そ・だ・ち」から見た活動内容に対する思いや感想を残すことができるワークシートを植木委員、堺市PTA協議



会、社会教育委員の学識の先生方のご協力により作成いたしました。ご覧いただいている資料 28 は記載例で、資料 27 がひな形、資料 29 はワークシートの使い方になります。このワークシートをアレンジも交えてお使いいただき、記載されたそれぞれの方の思いや感想を各ご家庭や地域で共有していただけたらと思います。

資料 24、25 をご覧ください。ワークシートを地域活動のなかで P T A を始めとする各団体などの方々に使っていただくことで、家庭教育支援は子どもの参加する活動にはどこにでも存在するものだと気づいていただけたらと思います。気づいたことを次に参加される地域活動などで引き継いでいただき、みんなで家庭教育を支えて多様性を大切にしながら家庭教育支援の視点を広げていっていただきたいと、市民のみなさんや各団体のみなさんにご提案するものです。今回社会教育委員の皆様にお諮りさせていただきご意見をいただき、先ほど植木委員からご紹介のありました、「親子で！みんなで！古墳を清掃！」というニサンザイ古墳周辺の清掃活動で配布し、参加された P T A の皆様にご提案する予定でございます。以上でございます。

○餅木議長 とても長いタイトルの、「親が育ち子どもも育つ地域活動に関わる人がより豊かな発想になる学びの仕組」という親育ち支援事業な訳ですけれども、これについてご説明いただきました。ここを今から議論していく時間がないので、見ていただいて大体、内容的には植木委員のお話からもご理解いただけたらと思いますけれども、こういったものを堺市教育委員会で作られて広めていく。ホームページか何かであがっていくんですね。

○事務局（宮本係長） 堺市ホームページと、あとは堺市 P T A 協議会にご協力いただけたらそのホームページで。

○餅木議長 いかがでしょうか。

○山口委員 これは教育委員会で実施されたらいいのではないですか。社会教育委員会議からの提案というには、少し私は、非常に重要な家庭教育支援の視点ですけど、これだけ説明書を渡されても。

○浅野委員 活動というか社会教育を進めていくときに、学校側とかいう教育のなかの理解と「つながり」が必要ですよ。 「つながり」を育てるといふのかそこを大きくしていく意味ではこの種の活動というのはどこかでアピール、P T A する意味のある中身だと思います。こういう動きがあるというのは知って、社会教育としてはこういうことがされていたらそれは P T A の活動だけでなく堺全体の活動ですよということで、うまく向こうが磁石を出したら同じ N 極を出すのではなく違う方のところを、引っつけに行く努力は必要だと思います。ワークシートについては、恐らくおっしゃったとおりですね。自分そのものの気づきとかコアになる方たちの中身でしか終わらないかなと思います。取り上げるべき中身だとは思

いますけど。

- 餅木議長 ワークシートの問題とかありましたが、いずれにせよ、とりあえず今回読み込んでいただいて、このままでは恐らく使いにくいだろうということもあるので、何かの形でブラッシュアップすることを目的にして、試してみる感じでしたら良いですか。
- 浅野委員 ここがモデルですよ、今回の事業の。
- 餅木議長 それを踏まえて教育委員会で、いかに普及できるのかを今後検討していただければということで、とりあえず今回はよろしくお願いします。
- 山口委員 発想とか着眼点は良いと思いますけどアプローチの仕方っていうのは、何か親としてこうあらねばならないっていうところに今、親さんはついてきません。確かに学校は困っています、モンスターペアレンツがね。普通のお店でも行儀の悪い子に困っています、親が怒らないとか、今日も朝やっていました。
- 事務局（田所教育次長） NHKです。たしか。
- 山口委員 やってましたね。だからそこが言いたいのでしたら言いたいではっきりその部分を言えば良いと思います。いったら悪いですけど、堺の小中学校で不登校児が600人近くいるわけです。その原因というのが明らかにされてないけど、私が実際に相談を受けるケースでは、先生が原因です。先生が怖い、先生の顔を見たくないと言って学校へ行っていない。
- 浅野委員 もっとひどいのは結局、相談に来ることができない子がいます。誰に相談して良いのかわからない。私どもの「石津っ子クラブ」だとか子ども食堂は普段、顔をあわせていて「このおばちゃんやおっちゃんやったら何かあったら相談したらええんちゃうか」という雰囲気作りをまず作ってあげないといけませんし、学校の先生が「一回、隣近所のおっちゃんと相談してみ」という話すらしてあげてないんですよ。そういう意味では「つながり」というか、全然活用がありません。それが今の学校と地域の間係ですよ。いろいろな意味で、これは私の校区ができてないのではなく、私の校区では「そんなことも含めてもっとお互いに情報交換しないとだめですよ」と言ってやりとりをしています、元校長だとかOBの方から、「浅野さん、聞いて。場所作りましょう」って。それが現実です。そんな意味も含めて、手法は別だけでも取っかかりとしては案としては捉えてあげて、「1回どんな結果出ましたか」って聞いてから、餅木議長がおっしゃっているブラッシュアップ。
- 山口委員 浅野委員がそんなにおっしゃるんでしたら。
- 林副議長 PTAって社会教育の団体として中核をなす一つかなと思います。仕組は見直していくにせよ、それで始めてどんどんバージョンアップさせていってその結果として、今さっきおっしゃっていただいたように、普段の悩みとかそこで言えるような形で先生とも接点

ができるなど、いろいろできるかなと思います。動かしながらまた考えていくというふうに。

○植木委員 そうですね。1回やってみるというところがありまして。

○餅木議長 じゃあ、よろしくをお願いします。

○植木委員 ありがとうございます。

○餅木議長 その他の案件にいきますけれども、30 ページをご覧ください。社会教育研究大会などについての報告とか来年度の案内ということです。事務局からお願いします。

○事務局（宮本係長） 平成 31 年度指定都市社会教育委員連絡協議会が平成 31 年 7 月 5 日に名古屋市で開催されます。正副議長を中心に参加者を調整させていただきたいと思います。31 ページになります。10 月 25 日、26 日に第 60 回全国社会教育研究大会 青森大会が開催されまして、私が参加してまいりました。特に印象に残っていますのは、シンポジウムのなかで社会教育委員の見える化にとって人作りに社会教育が必要だということを押し出していくこと。社会教育委員が学ぶとともに行政職員も学ぶことが大切だと発表されていたことです。私たち行政職員もこのような大会や研修に積極的に参加し、さらに学んでいかなければいけないと感じました。また情報交換会などで他市の社会教育委員の方や行政関係者に提言書（概要版）と「堺小ネタ帖」その 1 をお配りし、堺について発信をしてまいりました。資料 33、34 になります。平成 31 年度の全国社会教育研究大会は兵庫県で開催されます。10 月 24 日から 25 日に神戸ポートピアホテル・ポートピアホールを会場としております。また開催要項などがまいりましたら、出席者の調整をさせていただきたいと思います。以上でございます。

○餅木議長 ありがとうございます。

それでは、お諮りしたいと思います。まだ、案件 3 が残っていますが、案件 3、委員改選については非公開とすることに意義はありませんでしょうか。

では、これより非公開といたします。

（非公開）

（午前 11 時 57 分 閉会）